

“幼青老の共生”を目指して…

ウチヤマグループの理念と哲学の実践型経営

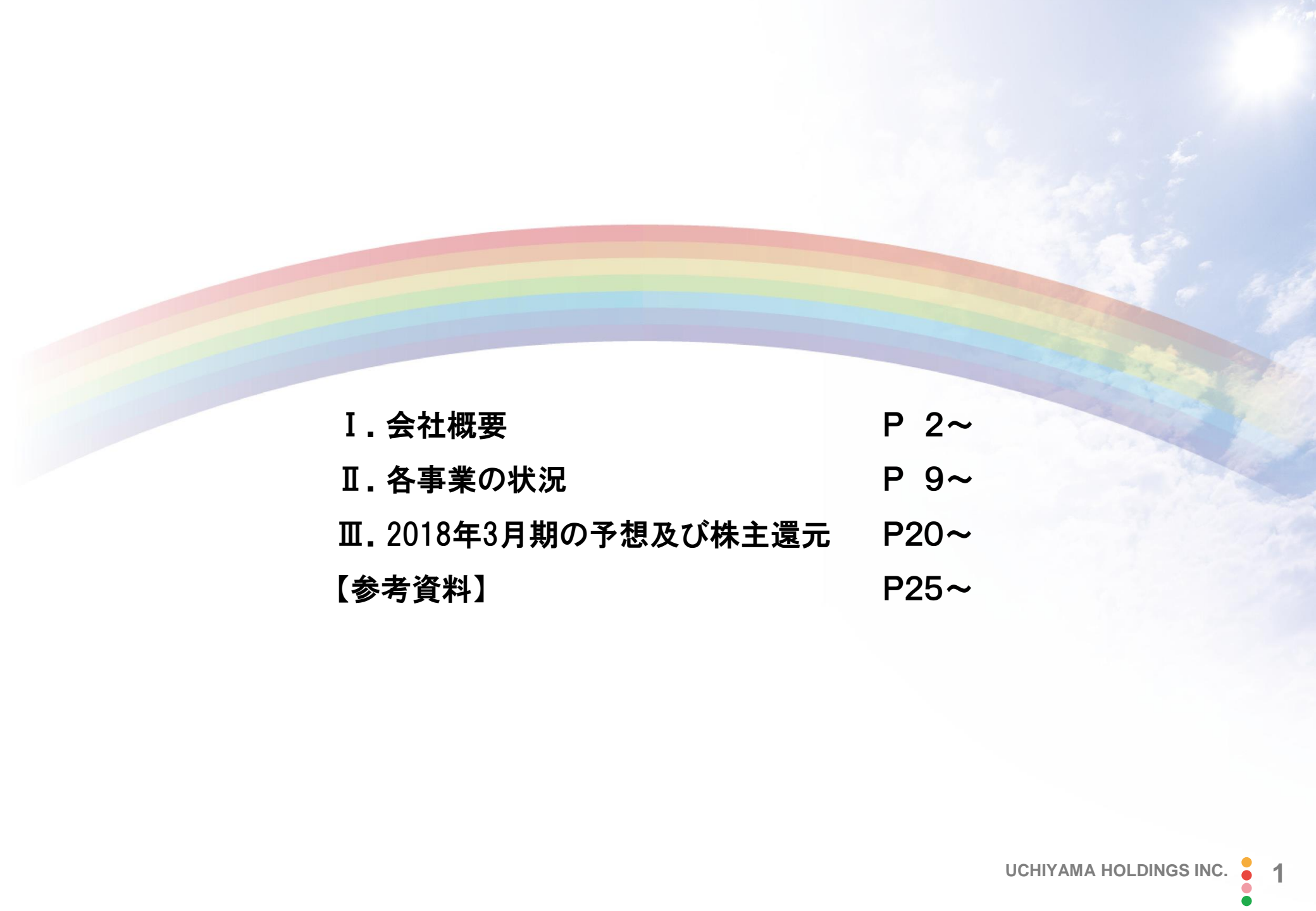
2017年12月



ウチヤマホールディングス
UCHIYAMA HOLDINGS

東証1部 証券コード 6059





I. 会社概要	P 2～
II. 各事業の状況	P 9～
III. 2018年3月期の予想及び株主還元	P20～
【参考資料】	P25～



I . 会社概要

1. プロフィール

社名	株式会社ウチヤマホールディングス
本社	福岡県北九州市小倉北区熊本2-10-10
設立	2006年10月（前身は1971年6月）
代表者	代表取締役社長 内山 文治
連結従業員数	正社員1,978名、パート・アルバイト等2,330名 合計4,308名（2017年9月末）
事業内容	<ul style="list-style-type: none">● 介護事業● カラオケ事業● 飲食事業● 不動産事業● その他（ホテル）

内山ビル(株)
創業46年

2. 当社グループの歩み

北九州市小倉北区にて親子2代
米穀店を経営

Foundation: 不動産事業の開始

1971年 6月 不動産の販売、賃貸管理を目的として福岡県北九州市小倉北区に内山ビル株式会社を設立

カラオケ事業スタート

1991年 4月 福岡県北九州市八幡西区にカラオケボックス1号店『コロッケ倶楽部黒崎店』を開店

飲食事業スタート

1995年 11月 福岡県北九州市小倉北区に飲食事業1号店の居酒屋『酒膳房然』を開店

介護事業スタート

2003年 4月 介護付有料老人ホーム及びデイサービスの併設施設「さわやかパークサイド新川」を福岡県北九州市戸畑区に開所

2004年 12月 介護部門を新設分割し、福岡県北九州市小倉南区に株式会社さわやか倶楽部を設立

2005年 11月 株式会社コウノを存続会社として関連会社6社を吸収合併し、株式会社ボナー（現 株式会社ボナー）に商号変更

Constitution: ウチヤマホールディングス設立

2006年 10月 福岡県北九州市小倉北区に株式移転により、株式会社さわやか倶楽部、株式会社ボナーの持株会社として株式会社ウチヤマホールディングスを設立(資本金285百万円)

2008年 7月 株式会社さわやか倶楽部にて、ホテルと住宅型有料老人ホームの併設施設『さわやかハートピア明馨』を開所

2010年 5月 株式会社さわやか天の川にて、大阪府枚方市に介護付有料老人ホーム『さわやか枚方館』を開所

Further growth: 上場

2012年 4月 大阪証券取引所（現 東京証券取引所）JASDAQ市場（スタンダード）に株式を上場

2013年 12月 東京証券取引所市場第2部へ市場変更

2014年 8月 タイ王国にボナータイランドを設立

2014年 9月 東京証券取引所市場第1部指定

2014年 11月 タイ1号店「かんてきヤスクンビット店」オープン

2015年 11月 障がい児通所支援事業 放課後等デイサービス「さわやか愛の家」を開所

2016年 9月 訪問看護事業「さわやか訪問看護ステーション八幡」を開所

3. 経営理念と哲学

ウチヤマグループ 基本理念

**慈愛の心
尊厳を守る
お客様第一主義**

ウチヤマグループ スローガン

幼青老の共生

幼年～青年～老年、共に楽しく過ごせる
社会作りを目指します。

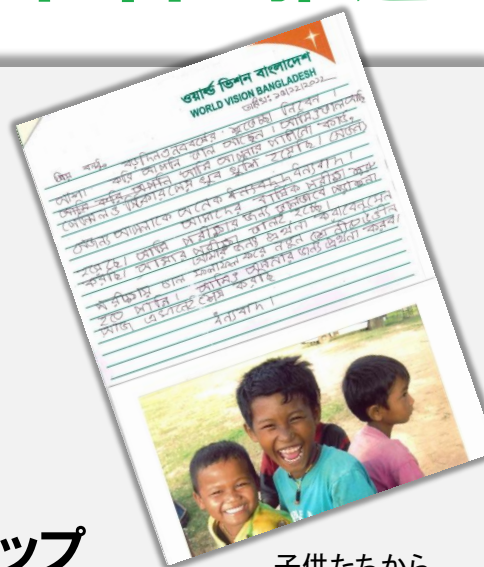
**「日本一の接遇とオペレーション」
を目指す
～Give and Give～**

4. 社会貢献

常に「社会貢献」を重視した経営を推進

- 地震被災者の施設での受入れ
(福岡西方沖地震、東日本大震災、熊本地震)
- 集中豪雨被災者の施設での受入れ
(九州北部豪雨、秋田豪雨)
- 世界の子どもたちの支援
(チャイルドスポンサーシップ、ラオスでの小学校建設)
- NPO法人テラ・ルネッサンスとのタイアップ
(アフリカの元子供兵の社会復帰活動支援)
- ホームレスへの炊き出し
- 著名人による特別講演会の主催
(1999年より過去25回実施)

⇒ 櫻井よしこ氏(2017年・2014年)、渡部昇一氏(2016年)
金美齢氏(2015年)、茂木健一郎氏(2013年)、安倍晋三氏(2012年)
五木寛之氏(2011年)、鎌田實氏、日野原重明氏など



子供たちからの
手紙



熊本地震被災者の施設受入

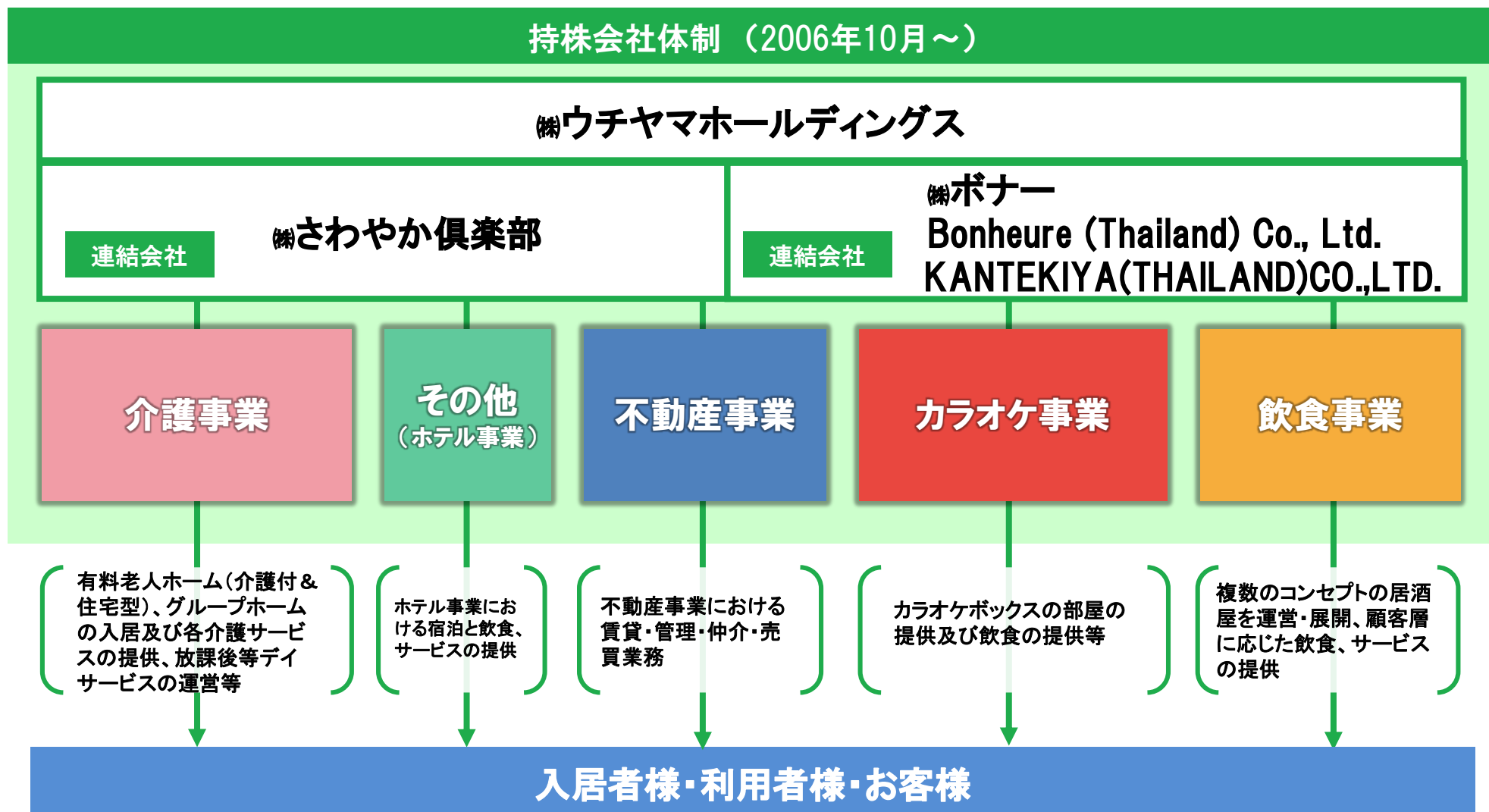


ラオスでの小学校建設



特別講演会の主催
UCHIYAMA HOLDINGS INC.

5. ウチヤマグループの概要

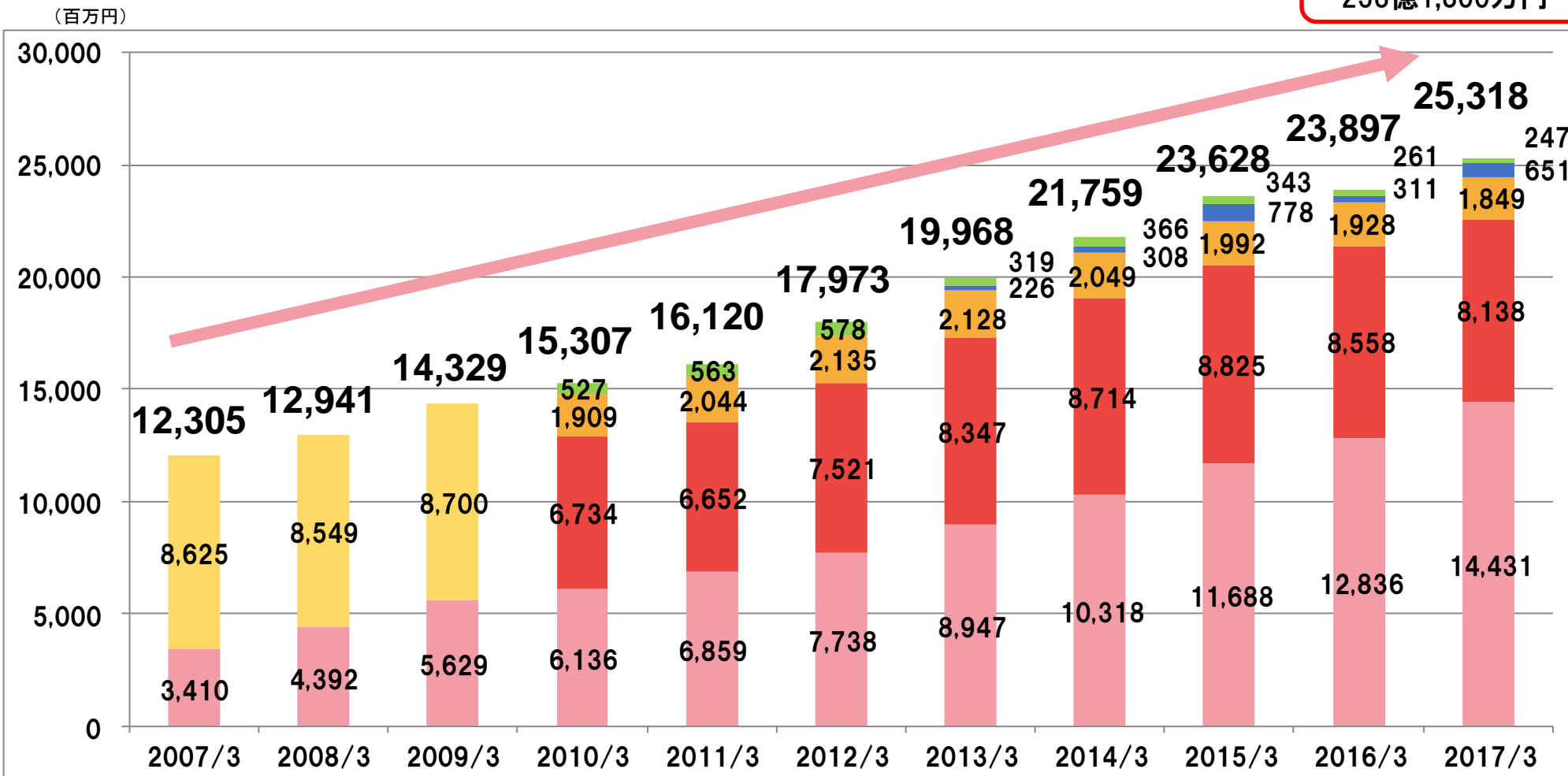


※: Bonheur (Thailand) Co., Ltd及びKANTEKIYA(THAILAND)CO.,LTDは、当社出資(1%)並びに連結子会社の株式会社ボナー出資(48%)のタイにおける合併会社。

6. 事業別の売上高推移（連結）

介護事業 カラオケ事業 飲食事業 不動産事業 その他 (株)ボナー

2017年3月期 売上
253億1,800万円





Ⅱ．各事業の状況

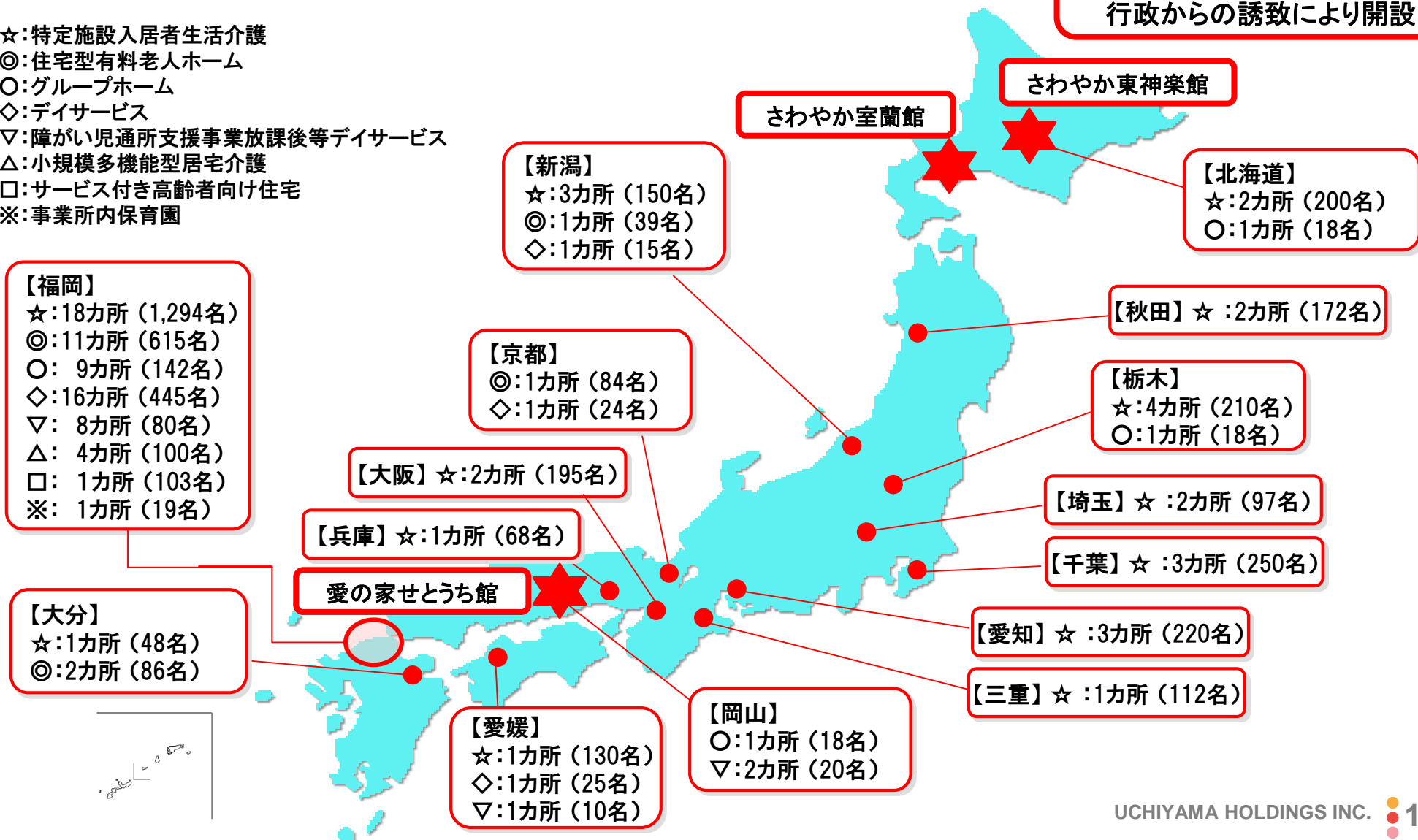
1. 介護事業 ①展開状況

2017年9月末現在の介護事業の展開状況は
ご覧の通りとなります。全国展開が着実に進んでおります。

展開状況（2017年9月末現在）

- ☆: 特定施設入居者生活介護
- ◎: 住宅型有料老人ホーム
- : グループホーム
- ◇: デイサービス
- ▽: 障がい児通所支援事業放課後等デイサービス
- △: 小規模多機能型居宅介護
- : サービス付き高齢者向け住宅
- ※: 事業所内保育園

【北海道】東神楽館、室蘭館
【岡山県】愛の家せとうち館
行政からの誘致により開設



1. 介護事業 ②新規施設の開設強化

戦略 ①	戦略 ②	戦略 ③	戦略 ④
特定施設 の積極展開	グループホーム の展開	放課後等 デイサービスの展開	M & Aの 推進

2018年3月期下期の開設計画 (トータル 565床、40名)

2017年 10月開設	さわやかグループホームはなみずき (千葉県千葉市)	※M & Aにより取得 グループホーム	18床
2017年 11月開設	さわやか愛の家あかいわ館 (岡山県赤磐市)	放課後等デイサービス	10名
2017年 11月開設	さわやかさがみはら館 (神奈川県相模原市)	介護付き有料老人ホーム	67床
2017年 12月開設	さわやかはままつ館 (静岡県浜松市)	介護付き有料老人ホーム	60床
2017年 12月開設	さわやか愛の家あさくら館 (福岡県朝倉市)	放課後等デイサービス	10名
2018年 1月開設予定	さわやか和歌山館 (和歌山県和歌山市)	介護付き有料老人ホーム	60床
2018年 1月開設予定	さわやか熊谷館 (埼玉県熊谷市)	介護付き有料老人ホーム	54床
2018年 2月開設予定	さわやか日高館 (埼玉県日高市)	介護付き有料老人ホーム	52床
2018年 2月開設予定	さわやか東大阪館 (大阪府東大阪市)	介護付き有料老人ホーム ショートステイ	94床 31床

2018年 3月開設予定	さわやかあおい館 (静岡県静岡市)	介護付き有料老人ホーム	50床
2018年 3月開設予定	さわやか岡崎館 (愛知県岡崎市)	介護付き有料老人ホーム ショートステイ 放課後等デイサービス	41床 9床 10名
2018年 3月開設予定	さわやか桜参番館 (秋田県秋田市)	介護付き有料老人ホーム 放課後等デイサービス	29床 10名

2019年3月期以降の開設計画 (トータル 179床)

2018年 4月開設予定	さわやか姫路館 (兵庫県姫路市)	介護付き有料老人ホーム	50床
2018年 8月開設予定	さわやか我孫子館 (千葉県我孫子市)	介護付き有料老人ホーム	50床
2018年 8月開設予定	さわやか草加館 (埼玉県草加市)	介護付き有料老人ホーム	61床
未定	さわやかグループホーム なすしおばら (栃木県那須塩原市)	グループホーム	18床

1. 介護事業 ③開設事例

事業所内保育園は来年の2月1日から認可保育園として運営します。

さわやかシーサイドくきのうみ（福岡）…2017年6月開設

ウチャマグループとして初めて、**事業所内に保育園を併設**した事業所



さわやかシーサイドくきのうみ

- ◆介護付有料老人ホーム(80床)
 - ◆ショートステイ(10床)
 - ◆保育園(定員10名)
- 〒808-0066 福岡県北九州市若松区くきのうみ中央2-1
TEL:093-752-5400

従来から、入居者様の“生きがいづくり”の一環として、近隣の幼稚園・保育園など地域社会との交流を重視



今回開設した施設では、**交流機会の拡大**に向け、事業所内に保育園を併設



1. 介護事業 ④オペレーションと入居率

業界トップクラスの高オペレーション(運営)効率

高いオペレーション効率

【看護・介護職員1人当たり利用者数】

- 当社 2.5～2.7人
- 特定施設事業者平均 2.2人

(出所) 厚生労働省「介護保険事業状況報告(2014年度版)」

堅調な入居率

【特定施設入居率】

- 当社(2017年4～9月平均) 93.8%
- 当社(2016年4～9月既存施設平均) 92.8%

働きやすい
施設構造

満足度の高い
ホスピタリティ

* 年間500時間の研修・勉強会
を実施

入居・退居が
しやすいシステム

* 施設への入居一時金不要

入居者様・家族の
口コミによる
さわやかブランドの
浸透

1. 介護事業 ⑤生きがいがづくり

高齢者を高齢者として扱うのではなく、「**生きがいがづくり**」をポイントに
「**入居者様・お客様が主役**」の考え方に立ち
入居者様が積極的に運営やイベントに参加するスタイルを追求



活力朝礼



毎月のお誕生日会



ハンドベル演奏会



笑顔コンテスト



見学者のご案内



栽培・収穫



盆栽教室



スナック もいちど

1. 介護事業 ⑥さわやか愛の家

介護事業における新規事業の推進

障がい児通所支援事業
放課後等デイサービス

「さわやか愛の家」

- 障がいのある子どもたち（6～18歳）に対し、放課後や長期休暇中において療育の場を提供
⇒ 日常生活動作の指導、集団生活への適応訓練等
- レスパイトケア：ご家族に代わり一時的にケアを代替することで、日々の疲れ等をリフレッシュしていただく家族支援サービス

2017年12月9日現在
13施設

目標：年10施設開設

【前期】

7施設を開設

（北九州市6施設、岡山市1施設）



「さわやか愛の家 めいすい館」
（2016年7月1日開設）



「さわやか愛の家 なかい館」
（2016年9月1日開設）

【当期】

展開エリア拡大

2017年 6月開設	さわやか愛の家にいはま館 （愛媛県新居浜市）
2017年 6月開設	さわやか愛の家せとうち館 （岡山県瀬戸内市）
2017年 8月開設	さわやか愛の家かんだ館 （福岡県京都郡）
2017年 11月開設	さわやか愛の家あかいわ館 （岡山県赤磐市）
2017年 12月開設	さわやか愛の家あさくら館 （福岡県朝倉市）
2018年 3月開設予定	さわやか愛の家おかざき館 （愛知県岡崎市）
2018年 3月開設予定	さわやか愛の家さくら館 （秋田県秋田市）



1. 介護事業 ⑦産学官連携

産学官連携に関する取組みはご覧の通りとなります。
後ほど担当者より詳しく説明をさせていただきます。

【事例-1】 口腔ケアのQOL向上 等に向けて

ウチヤマホールディングス

(公大) 九州歯科大学

(公財) 北九州産業学術推進機構

【目標】

- 産学官連携推進により、医療・介護分野における新たな研究成果の開発を行う
- 先端的かつ幅広い視野を有する人材の育成、新規技術の創出を目指す

【主な連携内容】

- 口腔ケア分野において、より質の高いサービス提供とQOL(生活の質)向上に繋がる取り組みを更に推進
- 社内資格として口腔ケア認定士を新設

【事例-2】 革新的イノベーション に向けて

ウチヤマホールディングス

(国大) 九州大学

(公財) 北九州産業学術推進機構
(一社) 生き方のデザイン研究所

【目標】

- 高齢者に関わる様々な気づきを対話によって収集・分析し、高齢化社会の重要課題を発見する
- アイデアの可視化・共有化を行い、事業化に結びつける
- 「生きがいづくり」をテーマに入居者の今後の目標などを考え、実現することで「新たな人生をデザイン」していく

【主な連携内容】

- 弊社施設において、各機関が参画・連携し、革新的なイノベーション拠点の創出を行う

【事例-3】 ITやロボット技術活用 に向けて

ウチヤマホールディングス

(国大) 九州工業大学

(公財) 北九州産業学術推進機構

【目標】

- 医療・介護分野において、情報通信やロボット技術を活用することで、施設におけるサービスの質的向上や業務軽減につなげる

【主な連携内容】

- 当社施設においての情報処理技術やセンシング技術を活用した実証実験の展開により、安全な介護を探求して行く

2. カラオケ事業 ①展開状況

戦 略

ドミナント化による地域一番戦略

4大都市圏での出店

カラオケ事業
店舗数の推移

2016年3月末(実績)

97店舗

△1

2017年3月末(実績)

96店舗

±0

2018年3月末(見込み)

96店舗

カラオケ店舗の展開状況 (2017年9月末現在)

【関西エリア】
4店舗

【中国・四国エリア】
11店舗

【九州・沖縄エリア】
70店舗

【関東エリア】
8店舗

【中部エリア】
1店舗

今後の戦略ポイント

- ① 特長を生かした既存店の集客UP
- ② 不採算店のスクラップ
- ③ 既存店のリニューアル

基本的な特長

- 1店舗当たりのボックス数は30室程度
- カラオケは常に最新機種を装備
- 明るい雰囲気、安心感、安全性
- 豊富な食事メニュー
- シニア層向けの割引サービスを実施
- さわやかゴールドメンバーカード
- さわやかモーニングパック



3. 飲食事業 ①ブランド戦略



海外

タイ 3店舗
かんてきや
スクンビット店
トンロー店
プロンポン店



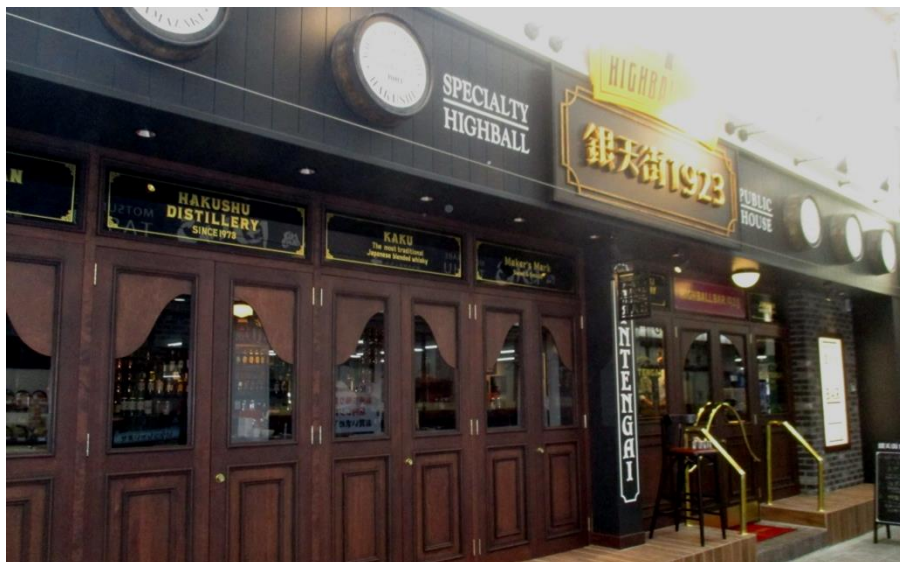
客単価 (1パーツ=3.0円)
昼: 約 270パーツ (約810円)
夜: 約 920パーツ (約2,760円)

地産・地消・地役

3. 飲食事業 ②新業態



「ハイボールバー銀天街 1923」 北九州市に初登場！



- 居酒屋「小倉再生酒場」(北九州市)の業態変更によるリニューアルオープン
- サントリーがプロデュースする「ハイボール専門店」
- 全国11号店目となる店舗



Ⅲ. 2018年3月期の業績予想及び株主還元

1. 2018年3月期 連結業績予想

(単位:百万円)

	前期(2017/3)		通期予想(2018/3)		前期比	
	金額	百分比(%)	金額	百分比(%)	増減額	率(%)
売上高	25,318	100	26,810	100	1,492	5.9
営業利益	777	3.1	1,120	4.2	342	44.2
経常利益	1,008	4.0	1,081	4.0	73	7.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	59	0.2	702	2.6	643	1,070.4
1株当たり純利益(円)	3.10	-	36.32	-	33.22	-
1株当たり配当金(円)	10	-	10	-	0	-

2. 株主還元

配当金について

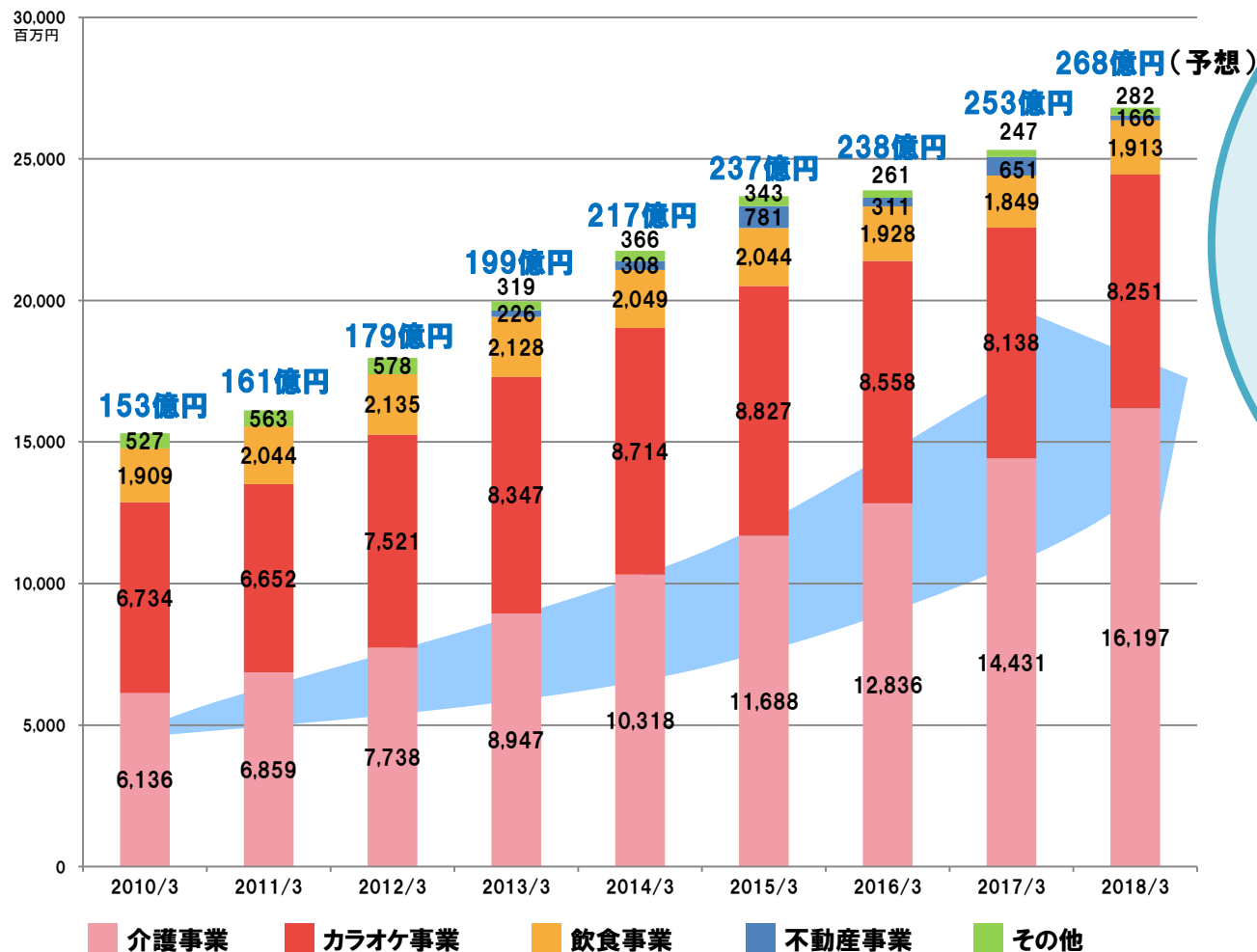
	第2四半期末	期末	合計	連結配当性向
2013年3月期（実績）	5円	5円	10円	13.2%
2014年3月期（実績）	5円	5円	10円	8.8%
2015年3月期（実績）	6円	5円	11円	18.4%
2016年3月期（実績）	5円	5円	10円	21.7%
2017年3月期（実績）	5円	5円	10円	322.9%
2018年3月期（計画）	5円	5円	10円	27.5%

株主優待について

ご対象株主様	ご所有株式数	ご優待内容
毎年3月31日の株主様	400株以上	お米券 5kg分（1kg券×5枚）

3. 長期ビジョン

長期ビジョン



長期ビジョン

【連結売上高】

1,000億円

【連結営業利益】

100億円
を目指す

ご清聴ありがとうございました





【参考資料】

1. 業績情報 ①要約損益計算書（連結）

（単位：百万円）

	2017/3 2Q累計	構成比 （％）	2018/3 2Q累計	構成比 （％）	増減率 （％）
売上高	12,135	100.0	13,100	100	7.9
売上原価	11,067	91.2	11,670	89.1	5.5
売上総利益	1,068	8.8	1,429	10.9	33.8
販売費及び一般管理費	852	7.0	853	6.5	0.1
営業利益	216	1.8	576	4.4	166.8
営業外収益	203	1.7	131	1.0	△ 35.2
営業外費用	69	0.6	38	0.3	△ 44.2
経常利益	350	2.9	669	5.1	91.3
特別利益	—	—	21	0.2	—
特別損失	12	0.1	4	0.0	△ 63.9
税金等調整前当期純利益	337	2.8	687	5.2	103.7
法人税等	129	1.1	244	1.9	88.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	209	1.7	442	3.4	111.4

1. 業績情報 ②要約貸借対照表（連結）

（単位：百万円）

資産の部				負債／純資産の部			
	2017/3 4Q末	2018/3 2Q末	増減額 (百万円)		2017/3 4Q末	2018/3 2Q末	増減額 (百万円)
流動資産	13,171	13,751	579	流動負債	6,256	7,025	768
現金及び預金	9,249	9,259	9	短期借入金	844	1,275	430
たな卸資産	1,117	1,112	△ 4	1年以内返済予定の 長期借入金	2,225	2,429	204
固定資産	17,184	17,735	551	固定負債	9,304	9,314	10
有形固定資産	12,361	13,259	898	長期借入金	7,516	7,784	267
建物及び構築物（純額）	7,721	8,282	561	負債合計	15,560	16,339	778
土地	3,629	3,760	131	（有利子負債）	11,727	12,383	656
無形固定資産	45	50	5	純資産合計	14,794	15,147	352
投資その他の資産	4,776	4,424	△ 351	（自己資本比率）	48.7 %	48.1 %	△0.6pt
				（ネットD/Eレシオ）	0.17 倍	0.21倍	0.04pt
資産合計	30,355	31,486	1,130	負債純資産合計	30,355	31,486	1,130

※1 有利子負債＝短期借入金+1年内返済予定の長期借入金+設備未払金+1年内償還予定の社債+リース債務+長期借入金+長期設備未払金+社債

※2 自己資本比率＝（株主資本+その他の包括利益累計額）／負債純資産合計

※3 ネットD/Eレシオ＝（有利子負債－現金及び預金）／純資産合計

1. 業績情報 ③要約キャッシュ・フロー計算書（連結）

（単位：百万円）

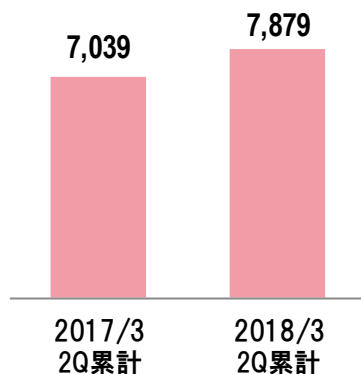
	2017/3 2Q累計	2018/3 2Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	575	1,001
税金等調整前当期純利益	337	687
減価償却費	575	488
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,267	△ 1,008
有形固定資産の取得による支出	△ 1,018	△ 1,433
有形固定資産の売却による収入	—	100
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 61	526
配当金の支払額	△ 99	△ 96
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 758	519
現金及び現金同等物の期首残高	9,301	8,969
現金及び現金同等物の期末残高	8,542	9,489

2. 事業別の状況 ①介護事業 (1)サマリー

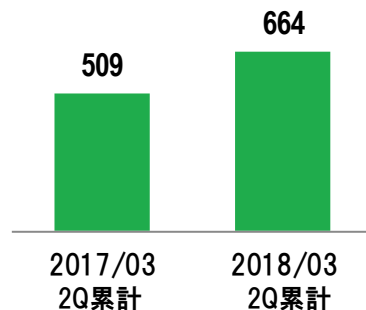
(単位: 百万円)

	2017/3 2Q累計	2018/3 2Q累計	増減
売上高	7,039	7,879	11.9%
セグメント利益	509	664	30.3%
セグメント利益率	7.2%	8.4%	1.2point

売上高(百万円)



セグメント利益(百万円)



- 介護付有料老人ホーム1カ所、障がい児通所支援事業放課後等デイサービス「さわやか愛の家」3カ所を新規開設し、営業拠点は84ヶ所156事業所に拡大し、11.9%の増収。
- 近隣の病院や居宅介護支援事務所への訪問による連携強化を推進することで入居率の安定化を目指した結果、既存施設の平均入居率93.4%(前年同期比+1.6%)に向上。

※入居率＝入居人数÷ベッド数、開設1年以上経過した施設のみで計算



さわやかシーサイドくきのうみ
(福岡県北九州市)

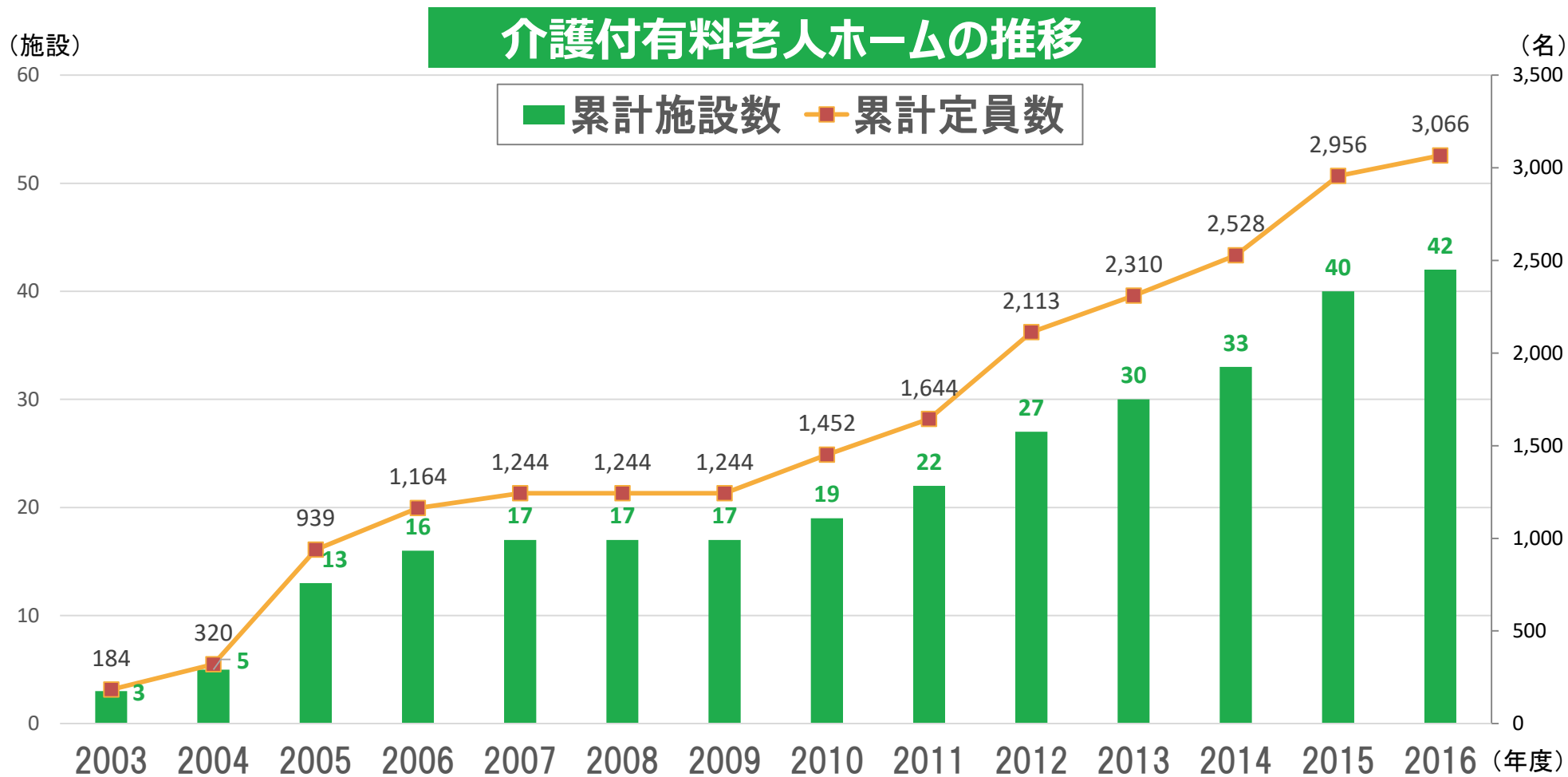


さわやか愛の家なかい館
(福岡県北九州市)

2017年 6月開設	さわやか愛の家にいはま館 (愛媛県新居浜市)	放課後等デイサービス	10名
2017年 6月開設	さわやかシーサイドくきのうみ (福岡県北九州市)	介護付き有料老人ホーム ショートステイ	80床 10床
2017年 6月開設	さわやか愛の家せとうち館 (岡山県瀬戸内市)	放課後等デイサービス	10名
2017年 8月開設	さわやか愛の家かんだ館 (福岡県京都郡)	放課後等デイサービス	10名

2. 事業別の状況 ①介護事業 (2)着実な拡大

過去14年間で年平均3施設弱(2.86)を開設し、着実な事業拡大を持続



2. 事業別の状況 ①介護事業 (3)新たな取り組み

■ 介護事業における新たな取り組み

【開発元】オフライン株式会社

御守り型認知症患者追跡端末 「みまもりビーコン」

御守り型認知症患者追跡端末



● 導入のメリット

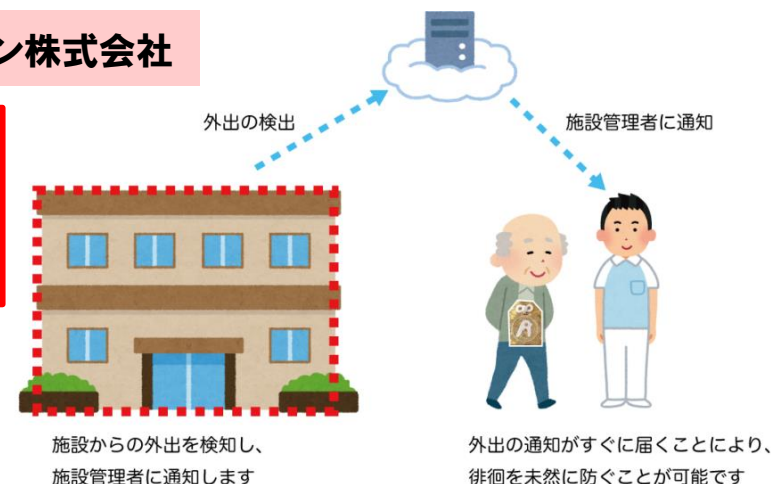
- ① 認知症の入居者様の徘徊および行方不明を防止
- ② 介護職員のみまもり業務の軽減効果
- ③ 介護保険が適用されるため、利用者は安価で利用可能

● 成果

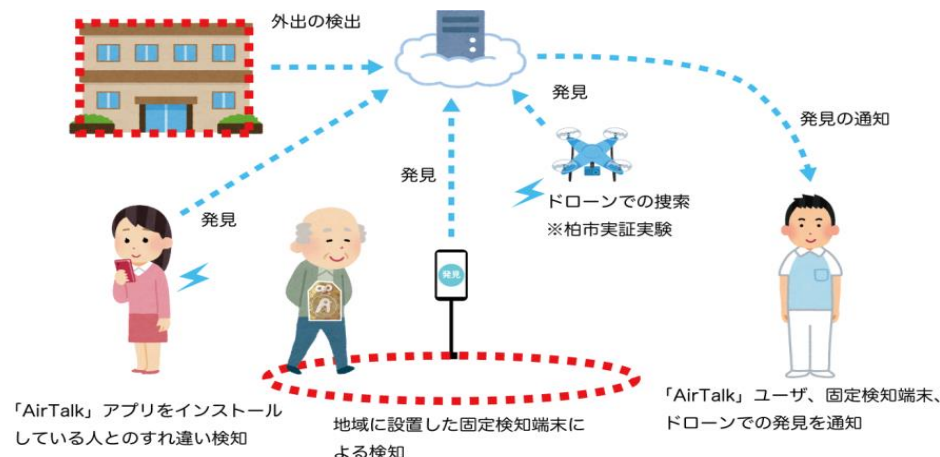
- ・石川県白山市における実証実験および施設導入
- ・仙台市の施設への導入
- ・当社グループ施設での実証実験
- ・柏市でのドローンでの搜索を含む実証実験
- ・いずれもビーコンを用いて徘徊の防止、外出、帰宅の確認、屋外でのビーコン検知ができることを確認

● 今後の展開

- ① 各施設への導入に向け、検証を継続・蓄積
- ② 「みまもりビーコン」の販売代理店として利用者を拡大し、安心・安全な社会の実現を目指す



「みまもりビーコン」概要



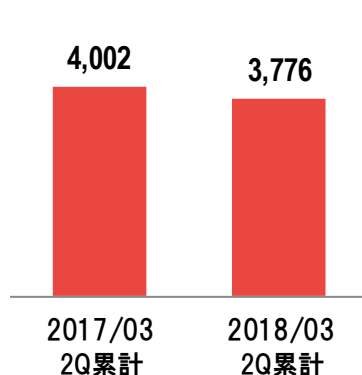
「みまもりビーコン」様々な発見方法

2. 事業別の状況 ②カラオケ事業 サマリー

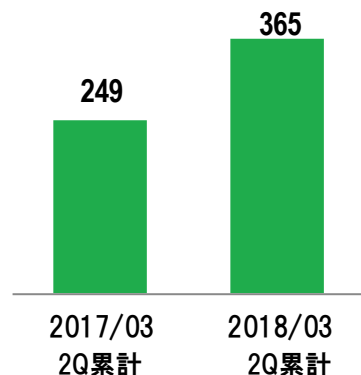
(単位: 百万円)

	2017/3 2Q累計	2018/3 2Q累計	増減
売上高	4,002	3,776	△5.6%
セグメント利益	249	365	46.4%
セグメント利益率	6.2%	9.7%	3.4point

売上高(百万円)

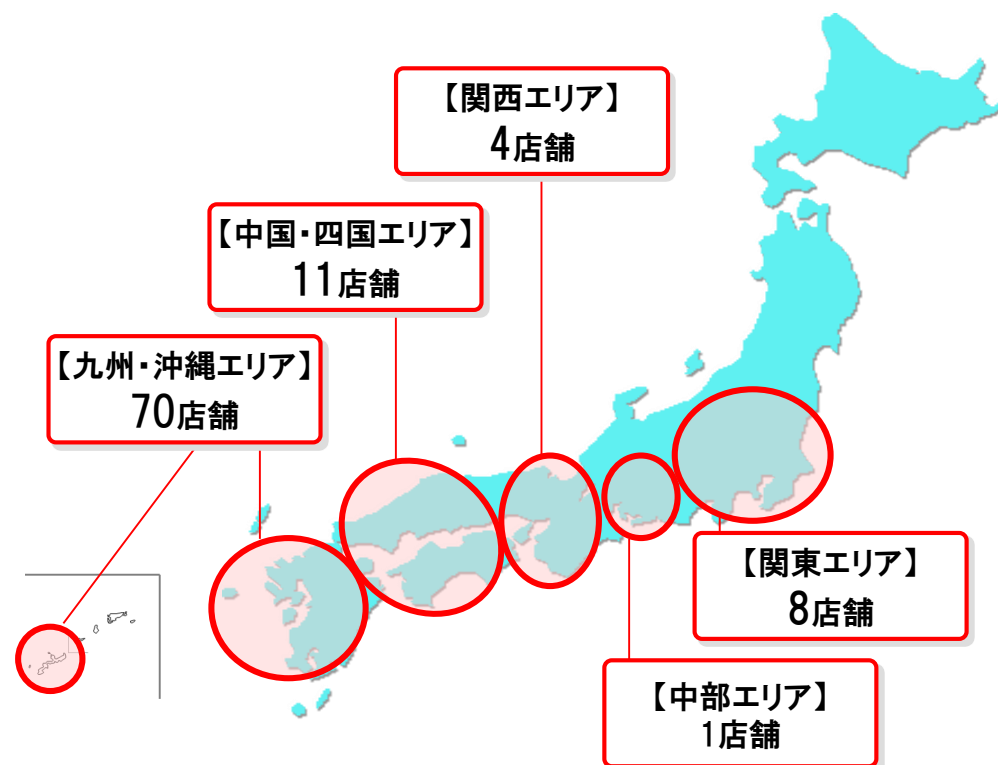


セグメント利益(百万円)



- 新規の出店は行わず、退店を2店舗行ったことから、店舗数は94店舗となりました。
- Web上のポータルサイトを積極活用し集客向上を図ったほか、スマートフォン向けのモバイル会員の勧誘を行うなどしてリピート客の増加に努めましたが、売上高は5.6%減収。
- その一方で、適正な人員の配置や業務オペレーションの効率化を推し進めコストの削減に努めたことにより、セグメント利益は46.4%の増益。

カラオケ事業の展開状況 合計94店舗 (2017年9月末現在)



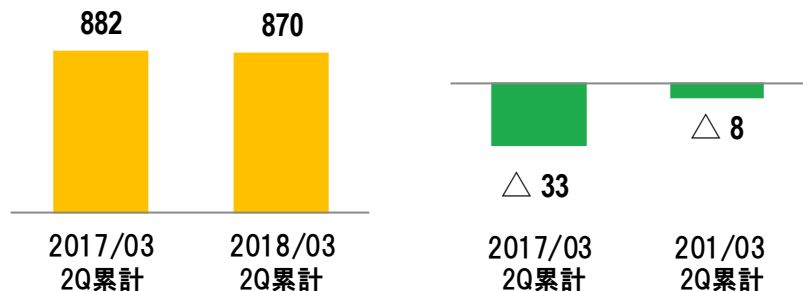
2. 事業別の状況 ③飲食事業 サマリー

(単位: 百万円)

	2017/3 2Q累計	2018/3 2Q累計	増減
売上高	882	870	△1.4%
セグメント利益	△ 33	△ 8	—
セグメント利益率	—	—	—

売上高(百万円)

セグメント利益(百万円)



- 既存店の業態変更を1店舗、カラオケ店舗からの業態変更を1店舗行った一方で3店舗の退店を行ったことにより国内21店舗、海外3店舗となりました。
- 既存店舗では集客が安定的に推移し、新業態としてハイボール専門店「ハイボールバー銀天街1923」をオープンし新たな需要の創出に努めました。
- 以上の結果、売上高は1.4%減収となりましたが、セグメント利益は赤字幅を8百万円(前年同期33百万円の損失)に圧縮することができました。



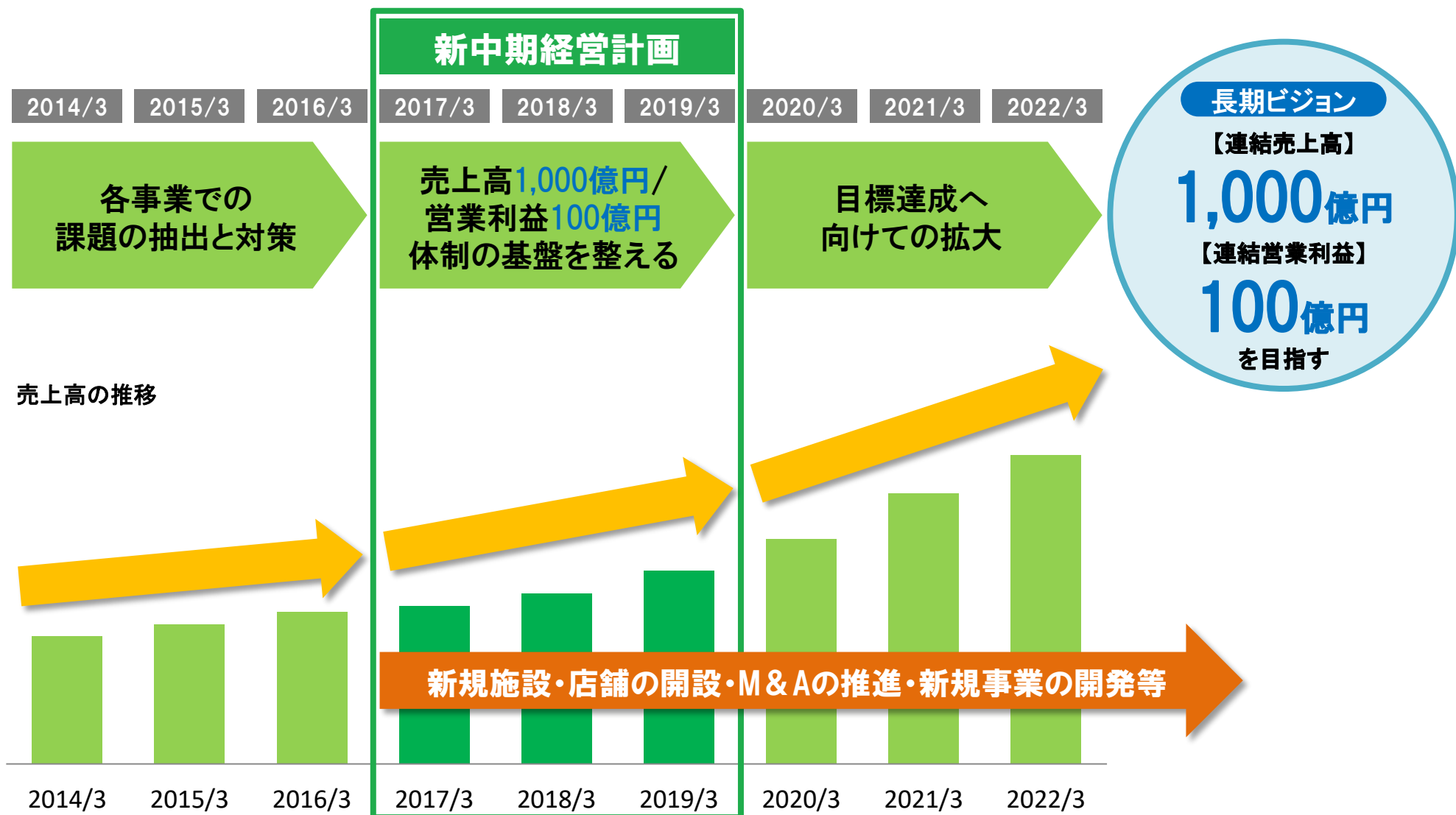
鳥くらぶ 直方店
(福岡県直方市)



かんてきや 大分本店
(大分県大分市)

【新規出店】 2017年4月1日	鳥くらぶ西新店 (福岡県福岡市)	70席
【業態変更】 2017年5月23日	ハイボールバー銀天街1923 (福岡県北九州市)	64席

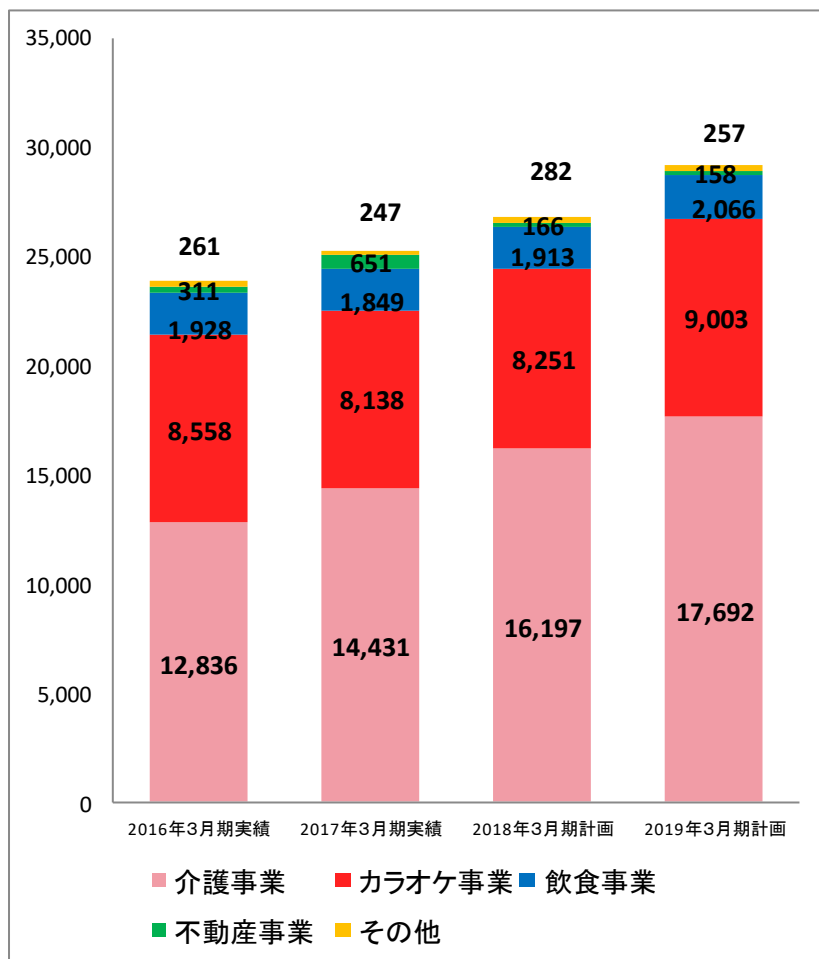
3. 新中期経営計画 ①位置づけ



3. 新中期経営計画 ②定量目標

■ 定量目標

(百万円) 売上高



	2017/3期 実績	2018/3期 計画	2019/3期 計画
売上高 (百万円)	25,318	26,810	29,178
営業利益 (百万円)	777	1,120	1,160
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	59	702	698
親会社株主に帰属する 当期純利益率(%)	0.2	2.6	2.4
総資産回転率	0.83回	0.87回	1回 以上
財務レバレッジ	2.0倍	2.0倍	2倍 程度
R O E (%)	0.4	4.7	5.0以上
配当の方針	安定配当 10円/年	安定配当 10円/年	安定配当 10円/年

●●●▶ 3. 新中期経営計画 ③基本戦略

主要事業のバランスを重視した成長戦略の推進
～成長事業と安定収益事業のベストバランス～

成長の原動力

介護事業

1. 新規施設の開設強化
2. M&Aの推進
3. 産学官連携による
サービス品質の向上
4. 新規事業開発の推進

安定収益力

カラオケ事業

1. 新規出店の持続
2. 顧客の維持・拡大戦略

飲食事業

1. 既存店舗の強化
2. 海外展開の強化
3. 国内新規出店の検討

●●●▶ 4. コーポレート・ガバナンスの強化について

監査等委員会設置会社への移行

(2017年6月27日開催の第11回定時株主総会にて承認)

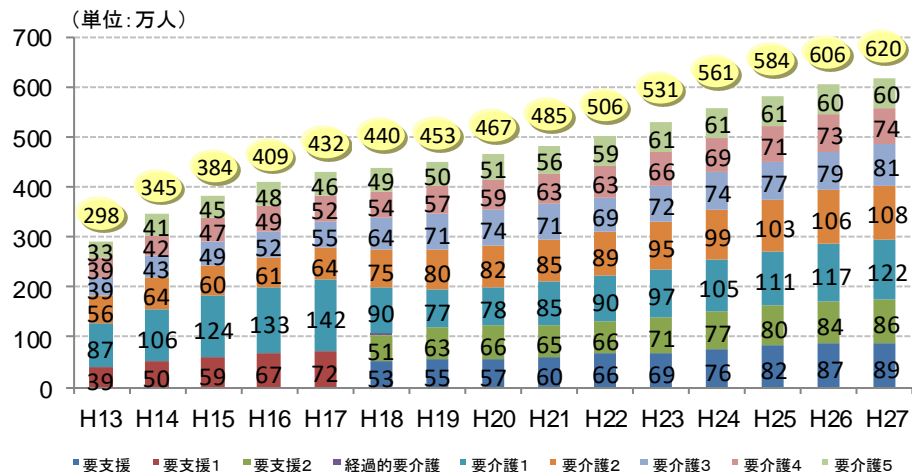
経営の透明性
の向上

意思決定の
迅速化

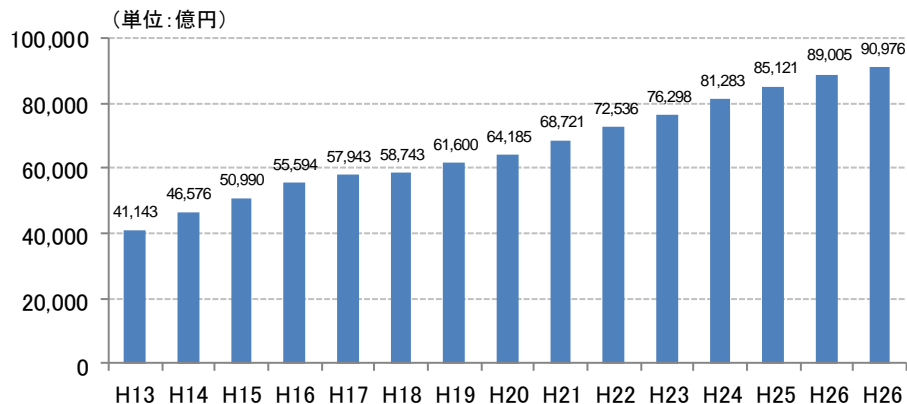
ステークホルダー期待に、よりの確に
応えることができる体制へ

5. 業界動向 ①介護市場の動向(1)

要介護(要支援)認定者数

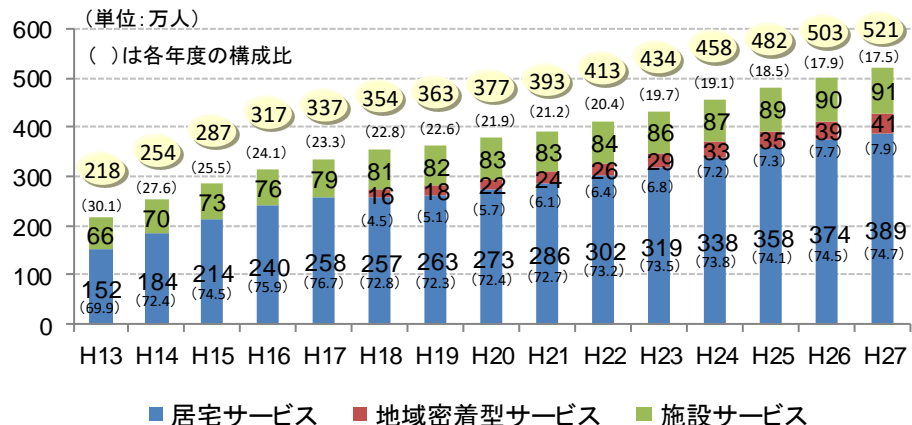


(参考1)年度別介護サービス給付費の推移

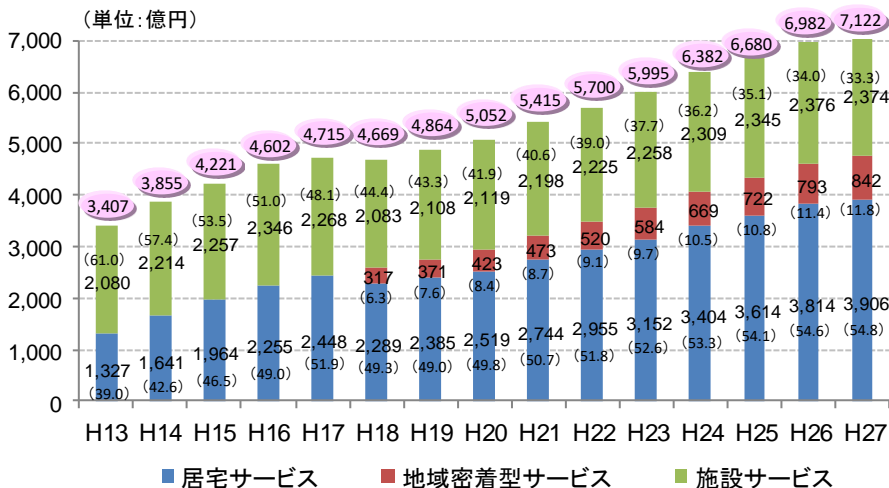


(注1) 特定入所者介護サービス費、高額介護サービス費、高額医療合算介護サービス費を含む。

介護サービス受給者数(1ヶ月平均)



(参考2)年度別(居宅、地域密着、施設別)介護サービス給付費の推移



(注1) グラフの数値は各年度における月平均値。()は各年度の構成比。

(注2) 特定入所者介護サービス費、高額介護サービス費、高額医療合算介護サービス費を含まない。

(注1) 各年度とも3月から2月サービス分の平均。ただし平成12年度は、4月から2月サービス分の平均。

(注2) 平成18年度の地域密着型サービスについては、4月から2月サービス分の平均。

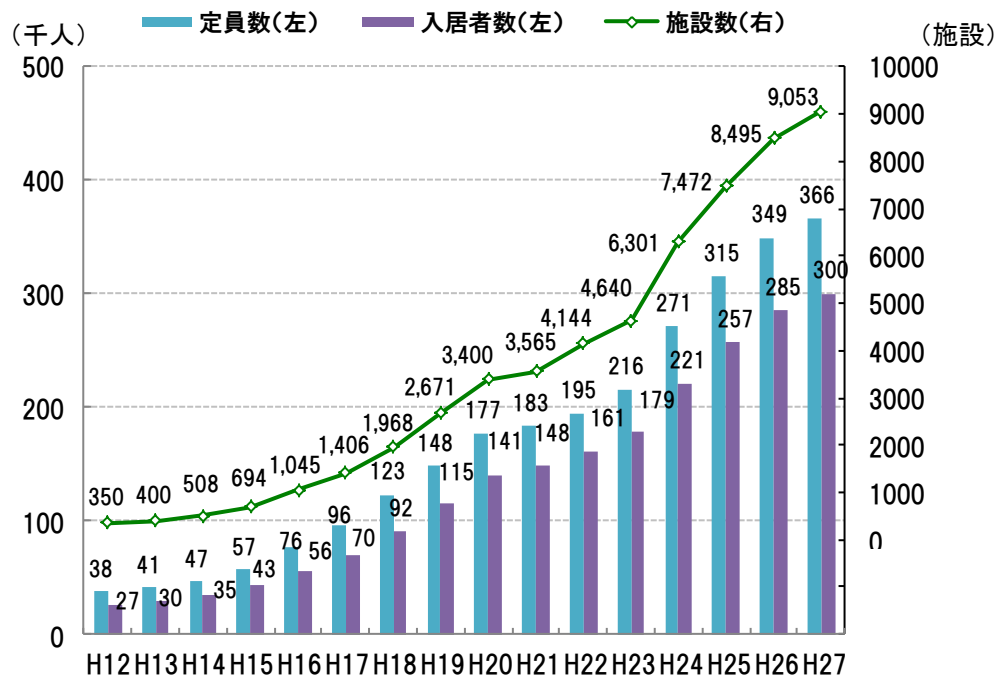
(注3) 受給者数は、居宅サービス、地域密着型サービス、施設サービス間の重複利用がある。

(出所) 厚生労働省「介護保険事業状況報告(平成27年度版)」※東日本大震災の影響により、H22はすべて福島県内5町1村の数値が含まれていない

5. 業界動向 ①介護市場の動向(2)

介護保険法施行(2000年)後、
急拡大を続けてきた有料老人
ホーム市場は、引き続き堅調に拡大

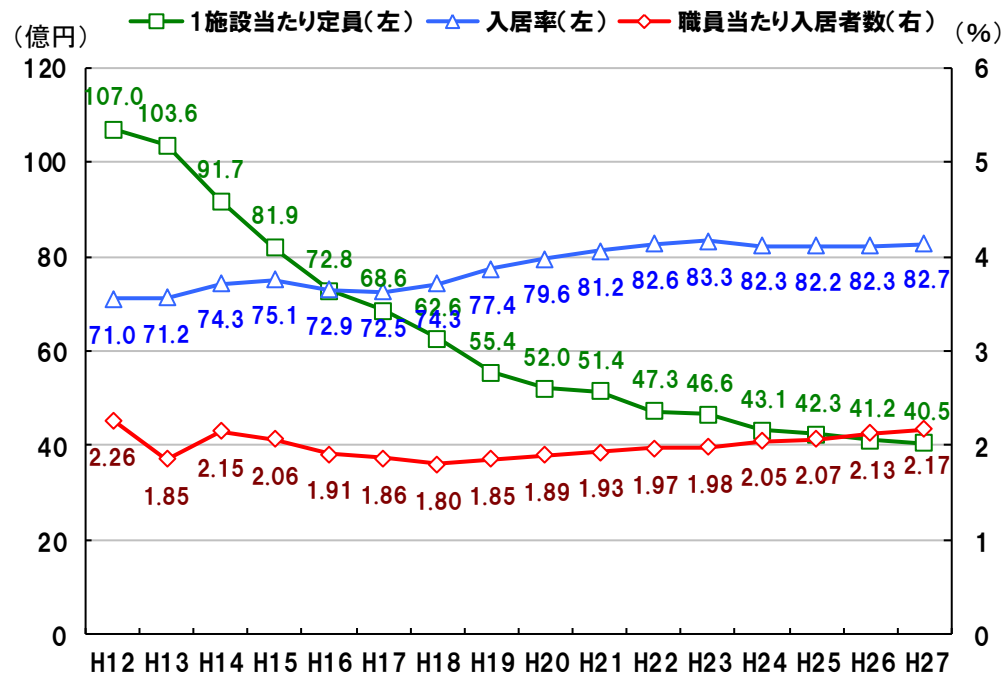
有料老人ホーム市場の推移①



※各年10月1日現在 ※職員数は常勤換算
(出所) 厚生労働省「平成27年度社会福祉施設等調査」

施設規模は縮小傾向にある一方、
人員効率は緩やかに改善

有料老人ホーム市場の推移②



※職員当たり入居者数＝入居者数／常勤換算職員数
(出所) 厚生労働省「平成27年度社会福祉施設等調査」

5. 業界動向 ①介護市場の動向(3)

- 参酌標準が撤廃され、各地域の自治体での介護施設策定計画の自由度が増加
- 各地域の自治体の実情に応じた基盤整備が進んでいくと想定

平成18年4月 介護保険法の改正

- ⇒各自治体が**特定施設の新規開設を制限**することが可能に
- ⇒新規開設を制限する際の根拠として、**参酌標準**が使用される

平成22年 行政刷新会議

- ⇒参酌標準の平成24年度からの撤廃を決定

各地域の自治体が地域の実情に応じて特別養護老人ホーム等の介護施設を整備可能

- ⇒**各地域の実情に応じた基盤整備が進んでいくと想定**
- ⇒市町村との繋がりを密にし、公募等情報の適時把握が肝要

(特定施設とは)

都道府県から「特定施設入居者生活介護」の指定を受けて、以下に入居された利用者に介護サービスを提供する事業所を指す。

1. 有料老人ホーム
2. 養護老人ホーム
3. 軽費老人ホーム(ケアハウス)
4. サービス付き高齢者向け住宅

(参酌標準とは)

各市町村が介護保険事業計画を策定する際に、各種サービス見込み量を定めるに当たり参酌すべきものとして、厚生労働大臣が示す目安。

具体的には、「介護保険三施設、グループホーム、介護専用型特定施設の利用者数を、要介護2～5の高齢者数の37%以下とする」というもの。

第5期介護保険事業計画期間(平成24～26年度)から撤廃される。

5. 業界動向 ①介護市場の動向(4)

※青字は当社の事業領域

	対象	都道府県が指定・監督	市町村が指定・監督
介護給付サービス	要介護1～5	<p>◆居宅サービス</p> <p>【訪問サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○訪問介護(ホームヘルプサービス) ○訪問入浴介護 ○訪問看護 ○訪問リハビリテーション ○居宅療養管理指導 <p>○特定施設入居者生活介護</p> <p>○特定福祉用具販売</p> <p>◆居宅介護支援</p> <p>◆施設サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護老人福祉施設(特養) ○介護老人保健施設 ○介護療養型医療施設 	<p>◆地域密着型サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ○夜間対応型訪問介護 ○認知症対応型通所介護 ○小規模多機能型居宅介護 ○認知症対応型共同生活介護(グループホーム) ○地域密着型特定施設入居者生活介護 ○地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
予防給付サービス	要支援1・2	<p>◆介護予防サービス</p> <p>【訪問サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護予防訪問介護(ホームヘルプサービス) ○介護予防訪問入浴介護 ○介護予防訪問看護 ○介護予防訪問リハビリテーション ○介護予防居宅療養管理指導 <p>○介護予防特定施設入居者生活介護</p> <p>○介護予防特定福祉用具販売</p> <p>【通所サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護予防通所介護(デイサービス) ○介護予防通所リハビリテーション <p>【短期入所サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護予防短期入居生活介護(ショートステイ) ○介護予防短期入所療養介護 <p>○介護予防福祉用具貸与</p>	<p>◆地域密着型介護予防サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護予防認知症対応型通所介護 ○介護予防小規模多機能型居宅介護 ○介護予防認知症対応型共同生活介護(グループホーム) <p>◆介護予防支援</p>

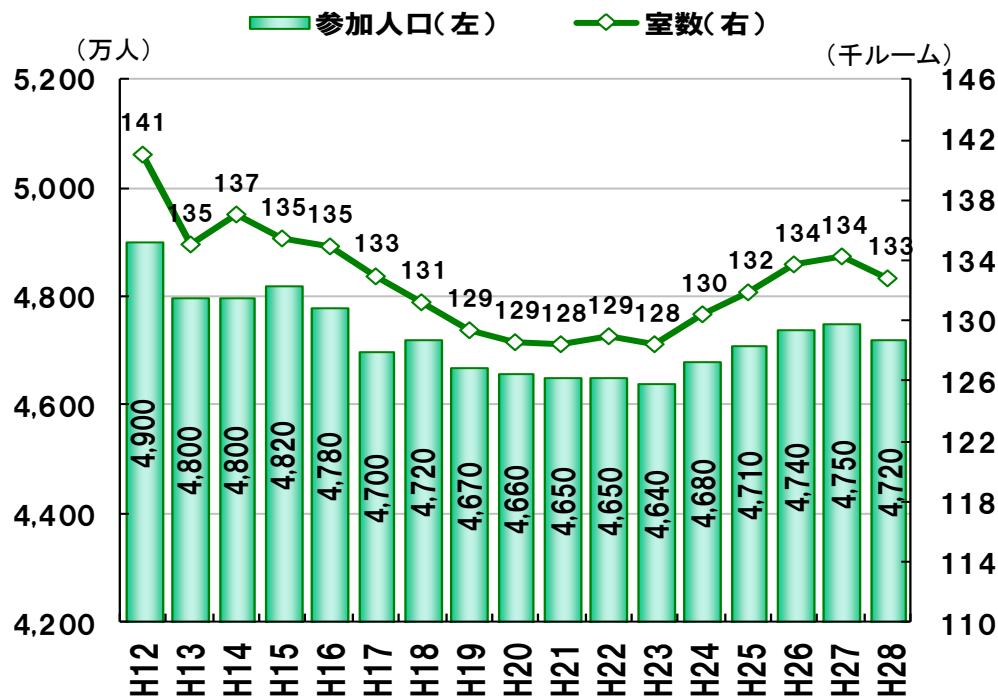
5. 業界動向 ①介護市場の動向(5)

	施設・事業所の概要	特定施設の指定の有無
		介護サービス提供主体
介護付 有料老人ホーム	介護が必要になっても、入居施設が提供する介護サービス等を利用しながら居住継続が可能。	○(特定施設)
		施設内の職員
住宅型 有料老人ホーム	生活支援等のサービスが付いた高齢者向けの居住施設。施設内に介護提供体制を整備する義務はない。	×(特定施設でない)
		外部の介護サービスを自身で選択
認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	認知症など的高齢者が一般の住宅で地域社会に溶け込みながら生活することを目的とする。	
短期入所生活介護 (ショートステイ)	介護を受ける高齢者が短期間入所し、食事や入浴といった日常生活全般の介護、機能訓練などを提供。	
通所介護 (デイサービス)	在宅での介護を必要とされる高齢者を対象に入浴や体操・レクリエーションなどの各種サービスを提供し、自立を支援する。	
訪問介護 (ヘルパーサービス)	ホームヘルパーが自宅に伺って、介護を必要とされる方の日常生活の手伝いを行う。	
居宅介護支援 (ケアプラン作成)	どのような介護サービスをいつ、どのくらい利用するのが良いか、高齢者にとって最適となるケアプランを作成。	
小規模多機能型 居宅介護	「通い」を中心に、要介護者の様態や希望に応じて「訪問」や「泊まり」を柔軟に組み合わせ、介護度が中重度となっても在宅での生活が継続できるように支援していくサービス。	
訪問看護	医師の指示に基づき、看護師が家庭に訪問し、病状や療養生活を看護の専門家の目で見守り適切な判断に基づいたケアとアドバイスをを行う。	
福祉用具サービス	高齢者の身体状況や住宅環境に合わせ、自立支援をサポートするための福祉用具をレンタルおよび販売にて提供。	

5. 業界動向 ②カラオケ・飲食市場の動向

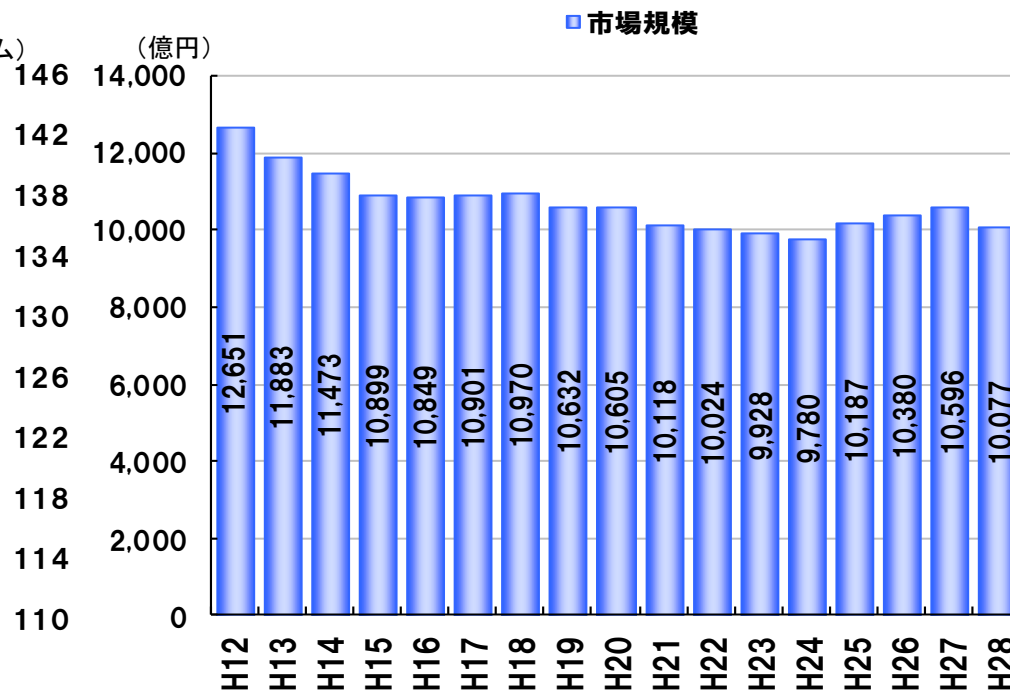
カラオケ市場・飲食市場ともに、市場規模の拡大は期待できない
⇒既存エリアでのドミナント化を推進

カラオケ市場の推移



(出所) 全国カラオケ事業者協会「カラオケ白書2017」

居酒屋・ビヤホール等市場の推移



(出所) 外食産業総合調査研究センター
「平成28年外食産業市場規模推計について」